

## 福岡女子大学 理事長・学長からの年頭の挨拶

福岡女子大学の教職員の皆さん、新年明けましておめでとうございます。

福岡女子大学は、最近の6年間に、過去に経験したことのない大きな変革を行い、新しい歴史の頁を開きつつあります。平成18年4月の公立大学法人としてのスタート、平成23年4月からの教育体制の抜本的改組により新設された国際文学部が歩み出しました。国際化教育という視点に立ち、正規の留学生22名とWJC(The World of Japanese Contemporary Culture Program)の短期留学生を合わせて、現在48名の留学生がキャンパス内で日本人学生と寮で同居しながら教育を受けるといふ、創立88年間で最も国際色の強い時を迎えています。福岡女子大学にとってこの激動の時期を、教育・研究と、社会・国際貢献の活動を拡充・充実させるための好機と捉え、国内外で知名度を上げ存在感を確かなものにするために、教職員一丸となって福岡女子大学の将来目標に立ち向かわなければなりません。

昨年3月11日に起こった東日本大震災・大津波とそれによって引き起こされた福島原子力発電所の災害は、日本人として今後決して忘れてはいけない悲劇です。3月11日の東日本大震災より早くも9ヶ月が経ちましたが、今なお復興が順調に進まず、精神的にも限界かと被災者の方々にお見舞い申し上げます。今回の東日本大震災では、被害に遭われた方々の強靱な絆と互いに助け合うという賢明な行動と忍耐で、日本人の誇りを世界に示すことができたことは、日本の将来に明かりを灯したと信じています。3月11日の東日本大震災をきっかけとして、私達の生活の仕方や考え方、あるいは政治・経済や科学・技術の在り方、日本の将来構想等、ありとあらゆる事が一変したように思います。日常生活はどうあるべきか、社会の仕組みはどうあるべきか、日本の政治・経済、科学・技術などの様に変わるべきか、世界での日本の存在感を如何に表すべきか、私達個人として、行政組織として、また、日本の国としても一度原点に戻って考え直してみることが大切です。

平成24年度は、公立大学法人福岡女子大学の中期目標・中期計画の第2期目の最初の年となります。第1期目に県の外部評価委員会から指摘された大学として基本的・本質的な項目に関しては直ちに改善しなければなりません。第1期目の中期目標・中期計画は、大学の設置者である県も、また、福岡女子大学自身も、法人化に対応するための経験も足りず、必ずしもこなれた評価項目ばかりではなかったと、私自身は考えています。第二期目の中期目標・中期計画の教育・研究、社会・国際貢献と大学組織・運営の各項目の内容と数値は、かなり改善された構成になっています。どの様な制度や組織であれ、直ちに完璧な姿になることはありませんので、福岡女子大学の将来構想を見据えて、評価項目とその内容を徐々に改善していかねば良いと考えています。大学としては中期計画の評価と実施は、特に教育・研究の環境の改善のためですから、将来に向かってスパイラルアップする様、努力目標を少し高めに設定しておかなければならないことは自明であります。高いレベルの教育と研究の実現が、福岡女子大学が今置かれている状況の改善・改革と知名度・存在感向上に直接繋がっており、これらを確実に実現することが、多大な公費を使用させていただいている公立大学の使命であることを、教職員は忘れてはなりません。

福岡女子大学の「新しい教育理念」は、「リーダーシップを持ち、国際的に活躍できる人材育成」と「地域社会の学術、文化、生活への貢献」です。福岡女子大学は教育大学であり、学生に対する基礎共通教育であるリベラルアーツ教育と専門教育、さらに国際化教育の着実な実施のためには、教員の教育力と徹底した教育サービスが求められています。教育＝人材育成の成果をあげるために、教員は学生に対して徹底した人材育成、すなわち教育サービスを行うという強い使命感と責任感が求められています。

学生に対して社会人・国際人としての素養の発揮のための人材育成は、教員が教室という場での授業だけでなく、授業時間外でも柔軟に直接指導できる教育制度と仕組みを、大学として確立しなければなりません。また、教育内容や授業の仕方は日々進化していますので、教室内授業も、学生や社会の希望に沿ったものかどうか、教育サービスという視点に立って各教員は授業をもう一度見直してください。さらに地域社会と連携したインターンシップ(社会連携)教育、コミュニケーション学習や外国滞実習などの実践教育は、国際的センスとバランスを身につけ、世界で活躍できる人材育成に不可欠です。

また、教員の教育力の発揮のためには、職員のバックアップなくしては不可能です。職員に対しては(5+1)S運動を提案しています。責任性、専門性、先見性、スピード、サービス(5S)を持って職務を果たせば、信頼(1S)が生まれます。福岡女子大学が高い社会的・国際的評価＝知名度・存在感を獲得するためには、教員と職員が車の両輪として強く連携し、大学を動かすことが求められます。大学の「新しい教育理念」を基盤として、教職員が人材育成の責務を十分に果たすことができるよう、学長として大学組織・制度の改善を着実に進めていきます。

大学と地域社会との強い関わりは、福岡女子大学が公立大学として地域社会に存在意義・責務を果たすために重要です。大学と地域住民との連携・協力による信頼関係の構築には、信頼関係を醸成するという教職員と学生の強い意識と意欲が必要です。特に留学生に対して多様な支援をお願いするための地域連携の強化は、福岡女子大学の国際化のために不可欠です。

福岡女子大学の教育・研究と社会・国際貢献における成果を目に見える形で社会に還元すること、それに基づく福岡女子大学の存在感の確立が、福岡女子大学に社会から最も求められています。教職員は福岡女子大学で勤務することに、学生はそこで学ぶことに誇りが持てる福岡女子大学となるためには、執行部の努力だけでは不可能です。教育大学として、国内外で存在感を顕すことのできる福岡女子大学構築が大学で働いている全教職員の義務・責務であることを自覚していただくことをお願いして、新春の挨拶といたします。

平成24年 元旦  
理事長・学長 梶山千里